

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401483
法人名	医療法人 祐和会
事業所名	グループホーム やすらぎ
所在地	〒859-1107 長崎県雲仙市吾妻町牛口名378-2 (電話) 0957-38-6855

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(H19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	11 人	常勤 11 人, 非常勤	人, 常勤換算 6,6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	4 階建ての	階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	一日あたり()		

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	12 名	男性 1 名	女性 11 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 83 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安藤病院・土井歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院内の3階部分に併設し、玄関には自然木の看板を設け、家族が気軽に訪問できるよう配慮されている。近隣には、市役所・スーパー等、立地条件が優れており、利便性に恵まれている。ホーム内は、明るく開放的であり、車椅子での利用も可能で、広くゆったりと過ごせる環境を保持されている。ホームの事務所前のフロアーには、季節を感じ取れる雛飾りが出迎えてくれ、ホッとする雰囲気作りに努められている。同法人内のサービスとの連携で、リハビリ施設の利用やレクレーション及び合同の行事参加等楽しみごと支援され、馴染みの地域の方との交流(中学生の職場体験・ボランティア・保育園児訪問)等も取り組まれている。協力医療連携により、365日・24時間の連絡体制を確保されているので、利用者及び家族の安心・安全を得られている。職員は、利用者本位のケアの周知・徹底に努め、穏やかに関わり、利用者への心遣いを忘れないように日々の熱意ある支援に取り組まれている姿勢が窺える。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価後の取り組みとして、改善計画シートを作成し、記録書式(日勤・夜勤・管理日誌等詳細な記入方法・事故報告書の具体的な記録)等の改善に取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は各ユニット担当職員2名が他の職員の意見を聞き、できている・できていないの振り返りを集約して取り組まれている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は、法人内ホーム合同で2ヶ月を目途に開催され、市職員・民生委員・家族代表・管理者・職員2名で構成されている。内容は、ホームの活動報告(職員研修実績・感染症の早期対応報告)等出席者より要望・助言を頂き、課題の早期解決に繋げる内容の会議が開催されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族の訪問時に、利用者の日々の生活状況や健康状態を報告して、毎月ホーム便りを利用料請求書と同封して発送されている。職員紹介や行事での利用者の様子を定期的に報告されている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	併設施設合同の夏祭り・クリスマスの行事やサービスへの慰問の機会を通じて、地域の人々との交流に取り組まれている。近隣の中学校職場体験の受け入れもされている。今後は、地域に密着したホームとして、取り組みへの理解と更なる地域の協力体制を得られるように、自治会や敬老会等の地域活動との連携の取り組みに期待したい。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「いつも笑顔を大切にし、居心地の良い暖かな生活の場を提供します」とされ、地域の家庭的な共同生活環境の中で馴染みの職員との関わりを大切に、安心して過ごせる様に、笑顔で明るい支援に努められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所の正面に毛筆で大きく掲示され、日々の介護に向けた職員の意識付けとして分かり易く明示している。全職員は利用者の状況報告(口答及び申し送りノート)の確認で周知徹底と明るい雰囲気作りに努め、利用者本位に心掛けて支援されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設施設合同の夏祭り・クリスマスの行事やデイへの慰問の機会を通じて、地域の人々との交流を取り組まれている。近隣の中学校職場体験の受け入れもされているが、地域の協力体制を更に強化する為にも、広範囲な地域の方の理解と協力が望まれる。		地域に密着したホームとして、取り組みへの理解と更なる地域の協力体制の強化を得られるよう、自治会や老人会等の地域活動との連携ある取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後は、改善計画シートを作成し、記録書式(日勤・夜勤・管理日誌等詳細な記入方法・事故報告書の具体的な記録)等の改善に取り組まれている。自己評価は、各ユニット担当職員2名が他の職員の意見を聞き、できている・できていないの振り返りを集約して取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、法人内ホーム合同で2ヶ月を目途に開催され市職員・民生委員・家族代表・管理者・職員2名で構成されている。内容はホームの活動報告(職員研修実績・感染症の早期対応報告)等、出席者より要望・助言を頂き、課題の早期解決に繋げる内容の会議が開催されている。		

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の認定代行申請で出向き、市の担当者と顔馴染みの関係の継続を保持されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、利用者の日々の生活状況や健康状態を報告し、ホーム便りを利用料請求書と同封して発送されている。職員紹介や行事での利用者の様子を定期的に報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表が参加されている。意見箱の設置もされ、家族の訪問時に気づきや依頼に対応し、意見を伺うよう配慮されている。家族交流会では、個別に介護計画についての話し合いの機会を設け、家族の安心に繋がるよう努められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内施設での異動がある場合は、利用者には事前の報告をして不安がないようなケアに取り組まれている。又、家族にはホーム便りで報告をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修を、主に月1回のグループワークを行う事で研鑽に努め、外部研修は、職員が指示により参加されるが経費等の点で自主的な研修の機会は希少で、研修報告や意見交換の機会を設け、チームワークを持ってケアに取り組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	民生委員の協力と仲立ちにより、近隣の4事業所との交流の試みがなされている。小規模ネットワークの試行により、地域のグループホームとの質の向上、及び情報の共有・課題の解決に向けての取り組みに、今後、期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内サービス利用からの入居希望は、利用日の短時間訪問で馴染んで頂き、徐々に時間延長後の入居へと配慮した支援をされている。病院からの利用の際は、家族と話し合い理解と協力のもと、雰囲気に馴染んで頂くよう取り組まれている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>様々な経験を経てこられた利用者と共に笑顔で関わる姿勢と、レクリエーションの時間を通じて日常の会話で思いの受容に努め、職員は喜怒哀楽を共にして支え合いながら、関係性の構築に努められている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用後の状況や対話の中でより深く理解する事に努め、日々の生活の充実を図り、利用者の意向や希望を聞き逃さないように努め支援をされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の意向を暮らしに反映したサービス内容となるよう、職員と家族の意見を基に介護計画を作成され、朝夕2回の申し送り等で職員との共有を図られている。又、家族には介護計画書を複写して発送し、面会時や家族交流会の時に説明を行い、家族の同意と記名捺印が得られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、職員会議を実施し、一人ひとりの状態の変化に応じ、随時又は3ヶ月を目途に、計画の見直しをし、前回の評価での指摘事項の改善に基づき詳細な記録により、有意義な支援に繋がるよう、ケアの継続に取り組まれている。</p>		

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内のサービスのリハビリ施設を利用したり、法人内合同の行事は家族や利用者によろこばれている。家族の宿泊への対応等、柔軟な支援をされている。又、外部への多機能性としてヘルパーの実習を受け入れられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関併設の利点として、歯科受診は家族の協力にて行なわれているが、週1回の訪問看護利用(看護日誌に記録)の他、2週間毎の往診(専門医)、提示薬診察(毎土曜日に実施)等、必要に応じ年間を通じて、24時間連絡体制で適切な医療を支援され、利用者並びに家族の安心と信頼を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針を基に、利用者の病状の変化に伴い、家族への説明を行い、家族の同意を得られている。現時点ではホーム内での看取りの実施はなく、医師の見極めにより、入院の措置をとられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの尊厳に配慮した言葉掛けに留意され、明るく笑顔で接している。個人情報に関しては、事業所の配慮及び家族の同意書も得られているが、ホーム便りの多方面への配布の際、利用者への配慮に細心の留意点に欠ける。		個人情報保護に基づき、家族以外への配信・掲示の場合、利用者の顔写真(正面を避ける)・実名の記載(イニシャル文字)等、細心の配慮で作成される事が望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、愛情を持って、介助をされている。レクレーションの時間にかかるた遊び・歌詞ファイルを見て歌ったり、利用者の希望に沿った支援に取り組まれている。又、利用者の要望を聞いて、隣町より訪問理容の支援にも努められている。		

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の栄養士作成の献立を参考にメニューを決め、月に一度利用者の希望(おはぎが大人気)を伺い、パイキングを取り入れられている。利用者に好評を得ており、笑顔で食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日実施され、利用者の体調と希望を確認して取り組み、入浴ができない時は、清拭にて対応し、身体の清潔保持に努められている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は丸テーブルで顔を見合わせ、語り合いながら食事をされ、食後の後片付けの食器の拭き取りを手伝われている。サービス施設において、陶芸・体操・足つぼマッサージ等体験の機会を設けられ、利用者一人ひとりの意向や力量に応じ、出来る事への支援を考慮されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内の病院への診察やサービスへ出向き、ホームから外出する事はあっても、職員と共に戸外へ気軽な外出の機会が思うように支援できず、取り組みに苦慮されている。		利用者一人ひとりの希望に沿って出来る事・出来ない事の判断を検討して、家族と職員相互の話し合いの結果を報告後、代表者の許可を得て、外出の機会を設けられる支援に期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中施錠されておらず、職員の見守りに加え、階下の病院職員や隣接する法人内施設職員による、自然な見守りにより安全に配慮されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年2回(自主訓練1回・消防署立会い1回)夜間想定での避難訓練も実施され、避難経路図・広域避難場所・懐中電灯・非常持ち出しファイル等を設けられている。利用者の安全を考慮して消火用設備(自動火災報知器・火災報知設備・防火シャッター)等を設置されている。今後の地震災害等に備え備蓄、夜間に於ける勤務体制の充実は万全と云えない。		夜間に於ける避難時等を考慮すると、現状の勤務体制で充分か否か検討を重ね、災害時に於ける家族の安心の為に、地震災害に対する訓練・非常時の持ち出しファイルの再検討・非常持ち出し袋・非常時の食糧の備蓄等、災害時に於ける家族への安心の継続を検討される事が望まれる。

グループホーム やすらぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にとって食事は楽しみな時間として、季節感・嗜好に配慮されている。形態食(刻み・おかゆ)の対応もなされ、摂取量及び水分摂取の把握に努め、食事・おやつ・入浴後・居室に楽のみ持参等で飲水の促しをされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中かで過ごせるよう、コタツ・ソファ・テレビ・小物の飾り付けをしてあり、食後には利用者がソファでゆったりと安心した表情で過ごされている。車椅子の利用者には、バリアフリーのホーム内は広々と快適であり、洗面台も利用しやすい設置の配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、筆筒・ベッド・使い馴染んだ寝具・日用品等、持ち込まれ、季節の変化に合わせ、家族が衣服の交換をされている。利用者一人ひとりの独立した住まいとして尊重し、職員手作りの氏名表示をされ、利用者が安心して過ごせる様に支援されている。		